

4) 多様なサービス提供の推進

共通1日乗車券・地下鉄専用1日乗車券の発売

共通一日乗車券：地下鉄・市電・市バス・JRバス・じょうてつバス・中央バスの市内路線
であれば一日中、何回でも乗車できるカード（大人 1,000 円 / 子供
500 円）

地下鉄専用1日乗車券：地下鉄に限って一日中、何回でも乗車できるカード（大人 800
円 / 子供 400 円）

ひるま 昼間割引

オフピーク時における公共交通の利用促進を目的として導入されたもの。

・回数券：平成 11 年 7 月～ カード：平成 11 年 12 月～

【内 容】昼間のみ利用可能な割安の回数券、乗車カードを発売し、昼間の公共
交通機関の利用促進を図る。

利用できる時間帯：午前 10 時から午後 4 時まで（改札機入場時間）

大人用カード 1 種類、名称「昼間割引カード」

発売額 2,000 円（利用可能額 2,500 円，割引率 20%）

カード対応改札機に直接通して利用できるほか、カード対応券売機で「昼間割引乗
車券（大人、こども、福祉）」を購入することができる。



通勤定期券持参人方式

平成 11 年 2 月より、定期券に記名された方以外でも持参した人が使用することがで
きる「持参人式」定期を導入。ただし、民営バスとの乗継定期券の場合、JRバスと
ばんけいバスについては、定期券に記名された方しか利用できない。中央バス・じょ
うてつバス・夕鉄バスについては、定期券を持参した方なら誰でも利用可能。

敬老優待乗車証（敬老パス）

高齢者の経済的負担軽減、社会参加の促進として導入。

70歳以上で札幌市に住民登録を行っている方（外国人登録者を除く）に対し、地下鉄・バス・市電・ロープウェイの優待乗車証を発行（現在は申告制となっている）。

（平成11年度対象者：約158,000人、交付数：約125,800枚、交付率：79%）

各種乗車券

割安な乗車券によりバスの利用促進を図る。

- ・環境パスポート（JRバス）...通勤定期所有者が休日家族同伴で利用する際運賃を割り引き。
- ・おでかけパス（JRバス）.....65歳以上全線定期券。
- ・よろこび回数券（中央バス）...46枚綴りの割引率の大きい回数券。
- ・実日数通学定期（中央バス）...日曜・祝日・第2、4土曜日を除く実日数有効な割安定期券。

福祉タクシー

障害を持った人や高齢者など移動制約者と呼ばれる方々に配慮した車いす用リフト付タクシーの運行。

（寝たきりの方や車いす使用者の外出のため、タクシー会社の協力を得て車いす用リフト付タクシーや寝台車を運行）

札幌市では車両購入費用の助成を実施。

【福祉タクシー】



乗合タクシー

札幌市近郊の市町において、平日及び土曜日のバス運行が終了した深夜にＪＲ駅と市街・団地を結ぶ乗合タクシーの運行を行っている。

団地間等における乗合タクシーの導入事例

区 間	ＪＲ北広島駅 ～北広島団地	ＪＲ北広島駅東口 ～南幌町市街	ＪＲ野幌駅 ～南幌町市街
キ口程	９．２km（循環） 自由乗降	１６．１km 自由乗降	１４．３km 自由降車
所要時間	１８分	２７分	２７分
運賃	４５０円 （一人一回 均一制）	５００円 （一人一回 均一制）	５００円 （一人一回 均一制）
配置車両数	ジャンボ車... ２両 小型車..... １５両	ジャンボ車... ２両 小型車..... １５両	常用 ジャンボ車... １両 予備 ジャンボ車... １両 小型車..... ３６両
１日平均 輸送人員	８人（平成１１年）	４人（平成１１年）	２人（平成１１年）
運行開始日	平成７年１２月１日	平成８年４月１日	平成１１年４月１日
運送事業者	有限会社 広島交通	有限会社 広島交通	安全永楽交通 株式会社
運行日	平日・土曜日	平日・土曜日	平日・土曜日
運行時刻	４/１～１１/３０ ２３:４５、０:３０発 （緑陽通先回り） １２/１～３/３１ ２３:４５、０:３０発 （緑陽通先回り） ２３:４５、０:３０発 （中央通先回り）	２２:４５発	２３:１５発
備 考		南幌町からの要請により 運行	南幌町からの要請により 平成９年４月１日から運 行。当初ＪＲ江別駅から 南幌町まで運行していた が、利用客増を図るた め、起点をＪＲ野幌駅に 変更し、平成１１年４月 から運行

便利タクシー

平成 12 年 8 月より、札幌市内タクシー会社の 2 社によって、新しい生活支援サービスを開始している。

実施会社：2 社

サービス内容

「お買物サービス」

コンビニエンス・ストアと提携し、400品目の中から客がオーダーした品物を宅配するサービス。（時間指定も可能。代金は現金で支払い。）

「お届けサービス」

忘れ物や急ぎの届け物などを、指定先に届けるサービス。

「病院受付代行サービス」

病院の診察受付を行ったり、通院送迎を行うサービス。

「自家用車トラブルアドバイス」

自家用車のトラブルを、専門家の経験と知識でアドバイスするサービス。ベテラン整備士が対応する。（アドバイスは無料。部品代、レッカー費用は必要。）

タクシーの位置表示システム（A V M）

全自動（A V M）方式：街中に設置しているサインポストでタクシーの運行状況を拾う方式。

半自動（A V M）方式：地区をいくつかに分割し、運転者の端末への入力により、配車センターで運行状況が把握できるもの。（地方都市で普及している）

G P S方式：G P S衛星からの電波をタクシー車両の屋根部に搭載されたアンテナがキャッチし、タクシー車両の無線で配車センターに必要な情報を送信する。配車センターでは、送信された情報をもとに最適車両を選定し、配車を行う。

その他動態表示方式：位置表示システムの初期のもので、タクシー車両の実車と空車の情報のみ配車センターに送信するもの。配車係は車両がどの方面を運行しているかは把握している。

タクシーの位置表示システム（A V M）導入状況

平成12年3月31日現在

方式	無線局数	設置事業者数
全自動（A V M）方式	268	5
半自動（A V M）方式	2,086	52
G P S方式	3,598	49
その他動態表示方式	29	2
合計	5,981	108
設置率	54.0%	32.0%

出典：北海道ハイヤー無線協会資料による

5) バリアフリー化の推進

駅舎の改善（バリアフリー）

高齢者、身体障害者等への対応と公共交通の利便性向上を目的として実施。

地下鉄駅に、エスカレーターやエレベーターを設置し、移動制約者の移動の負担を軽減するほか、一般の利用者にとってもスムーズな公共交通利用が可能となる。

- ・エレベーター設置駅：南北線 9 / 16 駅、東西線 13 / 19 駅、東豊線 14 / 14 駅（大通・さっぽろ駅は重複して計上）
- ・JR函館線 3 / 14 駅、千歳線 0 / 3 駅、札沼線 3 / 9 駅（札幌市内駅のみ）

超低床ノンステップバスの導入

乗降時の段差がほとんどなく、移動制約者の負担軽減、一般の利用者のスムーズな乗降が可能。

導入台数：（平成 10 年度）	交通局 1 台、中央バス 2 台
（平成 11 年度）	交通局 2 台、中央バス 20 台（補助ステップ）
（平成 12 年度）	交通局 2 台、中央バス 20 台（補助ステップ）

札幌市では車両購入費用の助成を実施。

【超低床ノンステップバス等の導入】



超低床ノンステップバス



補助ステップ



低床車両の導入（電車）

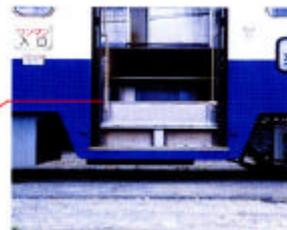
近年、全国の数都市において、ステップの無い路面電車が導入され始めている。

【低床車両の導入事例】

- ・床高が道路面とほぼ同じ高さで、ステップが無い。



超低床電車



従来の電車

1997年に熊本市で導入された超低床電車。
（他にも広島市で超低床電車が導入されている）



6) 適切な自動車交通の実現

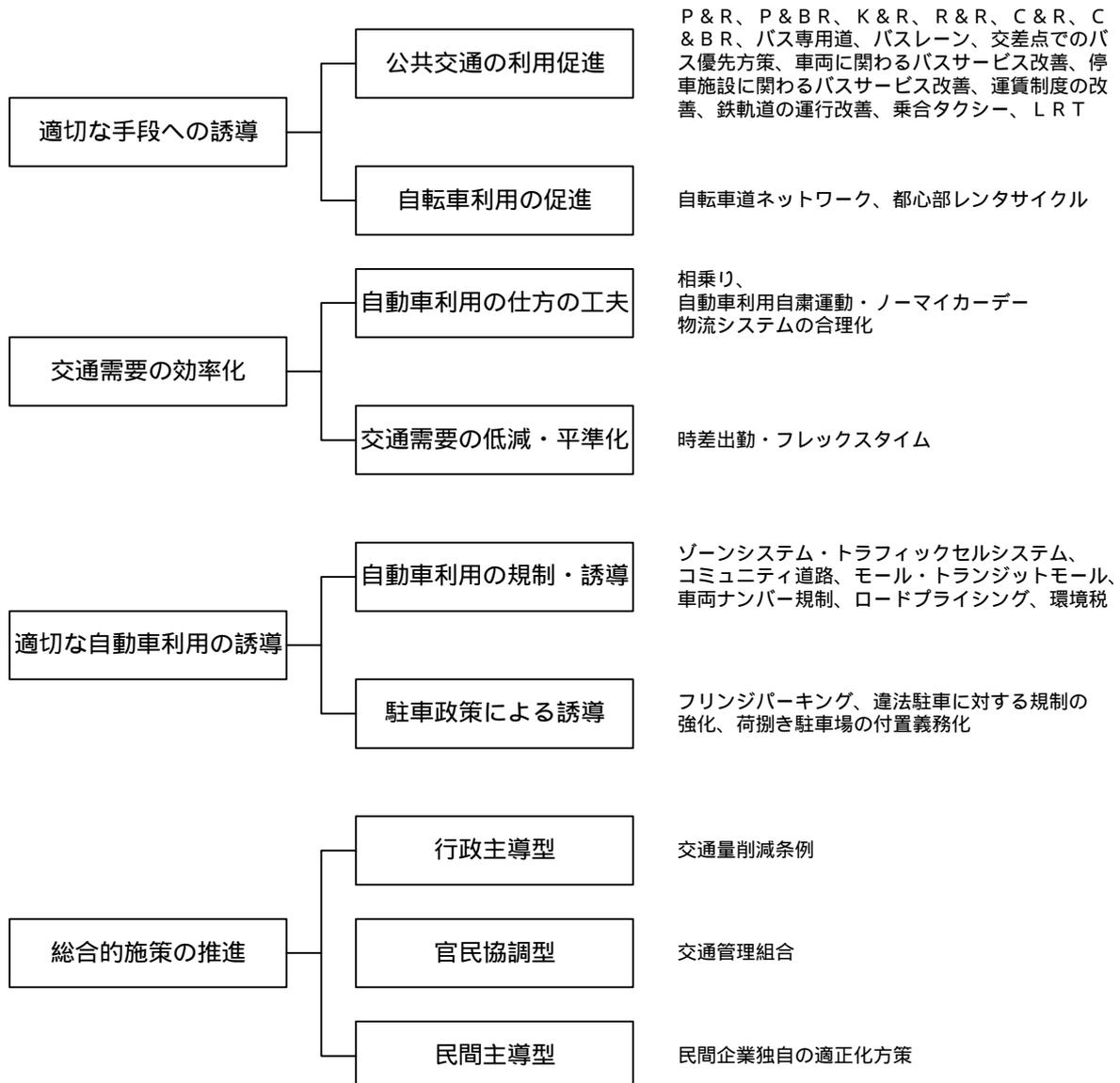
エコキップの発売(さわやかノーカーデー)

平成6年6月5日から、市民、事業者等に自動車利用の自粛を働きかけ、マイカーから公共交通機関への利用転換について協力を求めるため、毎月5日と20日を「さわやかノーカーデー」とし、各種啓発活動を実施している。さわやかノーカーデーにあわせて、市営交通の割安な一日乗車券「エコキップ」を発売している。

・大人700円、小人350円(共通1DAYは大人1000円、小人500円)

交通需要マネジメント(TDM)施策

交通需要マネジメント(TDM)は、自動車の効率的利用や公共交通への転換など、交通行動の変更や交通需要の調整を図ることにより、交通混雑など自動車の利用に伴う弊害を解消する都市交通施策である。



交通家計簿（トラベルブレンディング）

手法の概要

個人の自動車利用の意識改革を目的とし、まず、個人に対して3つのブレンド方法を提案。

手段のブレンド.....自動車だけを利用するのではなく、公共交通や徒歩といった他の交通手段を組み合わせる。

行動のブレンド.....トリップそのものを減らすために、同じ場所で多くのことを行う。

週単位の交通行動のブレンド.....毎日自動車を使うのではなく、週の1日は公共交通や自転車を利用する。

次に市民の交通行動や自動車利用に対する意識改革を行うため、3つの要素を含んだ4つの道具箱（kits）を用意し、具体的にプログラムを進める。

小冊子による「情報の提供」

1週間の世帯の交通行動の記録と自動車利用を記録するための「調査票」

収集した個人データを分析し、アドバイスを行う「フィードバック」

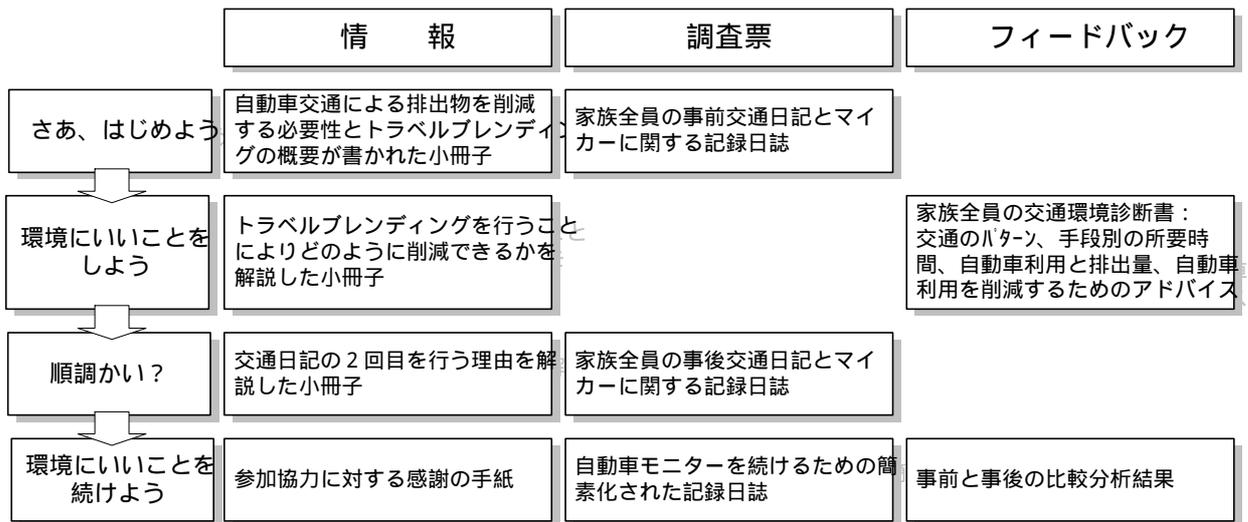


図 トラベルブレンディングプログラム

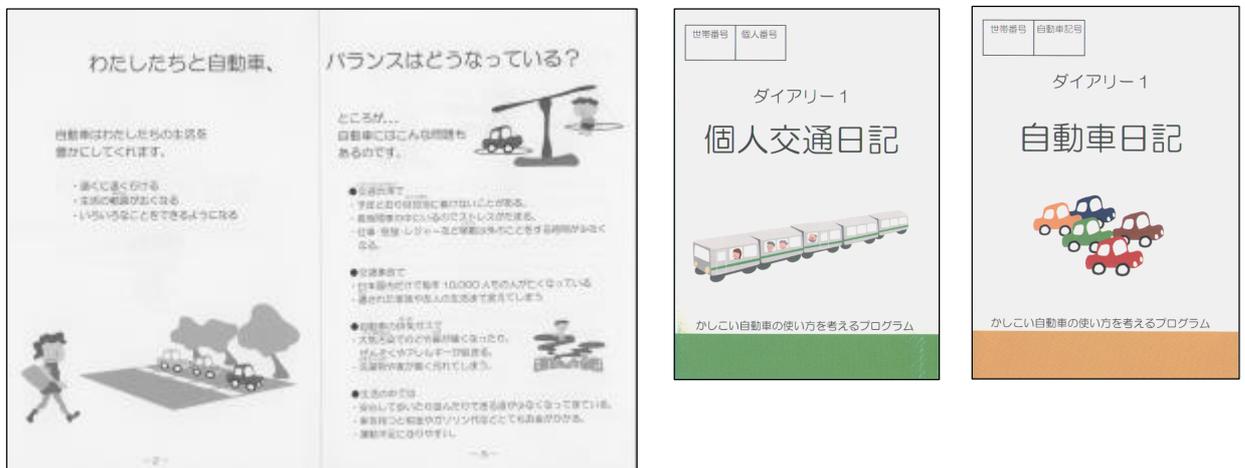


図 札幌市内の小学校において社会科授業の一環として実施された時の冊子類

7) 地域のまちづくりと合わせた施策の推進

都市計画的な利用促進(再開発など)

沿線土地利用の高度化および後背地での定住人口増加による利用促進。

【主な内容】

- ・用途地域の見直し：栄町駅周辺、月寒中央駅周辺 容積率 300%区域の拡大(平成 8 年)など
- ・再開発事業：北 13 東 7 地区、豊平 6・6 南地区 など
- ・優良建物等整備事業：福住駅地区、北 35 西 6 北地区 など

大型施設等の配置

大規模公共施設等の沿線配置に努めることによる利用促進。

【主な内容】・つどーむ(H9)、キタラ(H9)、きたえーる(H12)

イベントの開催、連携

公共交通の利用促進につながるイベントの開催。

- ・リンケージアップフェスティバル(H6~)
- ・YOSAKOI ソーランまつり(H4~)
- ・ウィズユーフェスティバル(H6~)
- ・Jリーグ(H5~)

【サタデーテーリング】

1DAY カードを使って市内のポイントを巡る「サタデー・テーリング」を第 2・4 土曜に実施。

さまざまな公共施設などがポイントとなっており、小学生などに大人気。

【YOSAKOI ソーランパス】

YOSAKOI ソーランまつり時の 1 日乗車券を発行し、公共交通の利用を促進。

平成 11 年度から市内の地下鉄と JR において利用可能(電車・バスは利用不可)

3 - 3 施策の総括

これまで取り組んできた施策と、今後重要となる施策の一覧を以下に示す。

		複数モード間共通	軌道系	バス	路面電車	タクシー	
公共交通 利用 促進 策	公共交通ネットワークの充実		(今後の充実の方向性) まちづくりおよび将来需要への 対応から導入検討を行う ・清田方面 ・南部方面 ・北部方面	(今後の充実の方向性) 軌道系交通機関との連携強化 ・駅接続バス路線等における 優先対策の推進 多様なニーズに対応したバス路線 ・環状バス、コミュニティバス など	(今後の充実の方向性) 既存路線の機能向上 ・優先信号システム ・ループ化 ・架線の集約化 まちづくりとの連携 ・都心や都心周辺部における延伸		
	公共交通の 利便性向上	移動の連続性や 快適性の向上	(地下鉄) 乗継施設の整備、改善 営業時間の延長 カード直接方式の改札導入 パークアンドライド駐車場の整備 駅前広場の整備 輸送力の増強 ・運行ダイヤ、車両更新 (JR) 乗継施設の整備、改善 中間駅の設置 駅前広場の整備 利用しやすいダイヤ ・運行時間帯の拡大 など 輸送力の増強 ・複線化、運行ダイヤ、快速列車	バス停の改善・集約 バスベいの設置 バスターミナルの整備 利用しやすいダイヤ ・運行時間帯の拡大 ・パターンダイヤ など バス専用、優先レーン (駅接続路線) 優先信号の設置 PTPS(公共車両優先システム) (駅接続路線) 走行環境改善 (違法路上駐車排除 ・バス路線の除排雪強化) 都心循環バスの実験 パークアンドバスライドの実験	電停の上屋・ヒーティング 地下鉄との乗継施設(EV,ES) センターポール化	タクシー乗り場の整備 (適切な配置) など	
		情報提供の推進	総合交通情報提供システム 案内標識の充実		バスロケーションシステムの導入 バス時刻表FAXサービス バス総合案内システム バス車体後部の行き先・系統表示	接近表示システム	
		多様なサービス提供 の推進	利用しやすい料金 ・高齢者・家族割引 など	(地下鉄) 地下鉄専用一日乗車券の発売 昼間割引 通勤定期券持参人方式 (JR) 昼間割引	昼間割引 環境定期券 各種割引制度(回数券、定期券) 通勤定期持参人方式		多様なタクシーサービス ・乗合タクシー ・便利タクシー ・観光タクシー プリペイドカード の導入など 運賃支払方法の検討 GPSを利用した 配車システム など
		バリアフリー化 の推進	乗継施設における昇降施設の設置 段差の解消	駅舎の改善 (バリアフリー化対応) ・EV・ESの設置等	超低床ノンステップバスの導入	低床車両の導入	介護・福祉タクシー など
適切な自動車交通の実現		交通需要マネジメント(TDM)の推進 ・公共交通ネットワークの充実 ・公共交通の利便性向上 ・都心における自動車交通の抑制	公共交通に配慮した適正な駐車施策の推進 ・物流効率化の促進	市民理解の促進 ・交通家計簿 (トラベルブレンディング) ・広報誌等によるPR、社会実験など ・自動車利用に関するルール作り	エコキップの発売 (さわやかノーカーデー) パークアンドライド駐車場の整備		
地域のまちづくりと合わせた施策の推進			地域特性に応じた地域の交通計画の策定 地域交通計画の策定 ・都心交通ビジョン ・各拠点地区交通計画 など	都市計画的な利用促進(再開発など) イベントの開催、連携			

黒文字：既に取り組んでいる施策 赤文字：今後重要となる施策

【参 考】札幌市総合交通対策調査審議会 委員名簿

審議会 委員

	氏名	職業（役職）
会 長	小林 好宏	札幌大学経営学部教授
副会長	小林 英嗣	北海道大学大学院工学研究科教授
委 員	浅松 千寿	中村浅松法律事務所弁護士
"	阿部 紀之	社団法人 札幌地区トラック協会専務理事
"	有山 忠男	株式会社 ライヴ環境計画代表取締役
"	石井 耕	北海学園大学経済学部教授
"	岩井 滉	札幌商工会議所経済政策委員長
"	大田すみ子	社団法人 北海道看護協会会長
"	川崎 一彦	北海道東海大学国際文化学部教授
"	菊池 哲男	社団法人 北海道バス協会専務理事
"	後藤 元一	札幌市立高等専門学校教授
"	佐藤 和博 (長野 隆)	北海道旅客鉄道株式会社取締役総合企画本部長 (北海道旅客鉄道株式会社専務取締役)
"	佐藤 馨一	北海道大学大学院工学研究科教授
"	渋谷 絢子	社団法人 札幌消費者協会副会長
"	谷本由紀子	社会福祉法人 札幌慈啓会ふれあいの郷施設長
"	中田 隆博 (松下 直樹) (橋本 毅)	社団法人 札幌青年会議所理事長
"	橋本 尚江	北海道大学言語文化部教授
"	前田 邦之	北海道高等学校PTA連合会元石狩支部長
"	松村 操	高齢者問題研究札幌イノベーションネットワーク代表
"	山岸 光生	社団法人 札幌ハイヤー協会専務理事
"	山本 廣和	連合北海道札幌地区連合会副会長
旧委員	畠山 武道	北海道大学法学部教授(就任当時)

()内は前任者

(平成13年4月現在)

専門部会 委員

	氏名	職業（役職）
部会長	佐藤 馨一	北海道大学大学院工学研究科教授
委員	有山 忠男	株式会社 ライヴ環境計画代表取締役
"	石井 耕	北海学園大学経済学部教授
"	岩井 滉	札幌商工会議所経済政策委員長
"	川崎 一彦	北海道東海大学国際文化学部教授
"	菊池 哲男	社団法人 北海道バス協会専務理事
"	後藤 元一	札幌市立高等専門学校教授
"	渋谷 絢子	社団法人 札幌消費者協会副会長

（平成 13 年 4 月現在）

起草委員会 委員

	氏名	職業（役職）
委員長	小林 英嗣	北海道大学大学院工学研究科教授
委員	佐藤 馨一	北海道大学大学院工学研究科教授
"	石井 耕	北海学園大学経済学部教授
"	岩井 滉	札幌商工会議所経済政策委員長

（平成 13 年 4 月現在）

参 与

	氏名	職業（役職）
参 与	川村 和幸 (本多 満)	北海道開発局建設部道路計画課長
"	長谷川伸一 (菅井 雅昭) (菅野 孝一)	北海道運輸局企画部長
"	相馬 秋夫 (磯田 憲一) (山口 博司) (鎌田 昌市)	北海道総合企画部長
"	逢坂 禎 (相馬 秋夫) (遠藤 禎一)	北海道建設部長
"	中俣 進 (菅沼 篤) (掛江浩一郎)	北海道警察本部交通部長

（ ）内は前任者

（平成 13 年 4 月現在）

事務局

横山 直満 札幌市企画調整局総合交通対策部長
(藤林 義廣)
井上 唯文 札幌市企画調整局総合交通対策部交通企画課長
(林 要一) (" 交通計画課長)
(中澤 孝幸) (" 調査担当課長)
坂田 和則 札幌市企画調整局総合交通対策部交通企画課調査担当係長
小泉 威 札幌市企画調整局総合交通対策部交通企画課
()内は前任者 (平成13年4月現在)

作業協力

橘 覚 株式会社ドーコン 交通計画部 次長
坂本 拓也 株式会社ドーコン 交通計画部 主任技師
及川 宏之 株式会社ドーコン 交通計画部 主任技師
岡本 真和 株式会社ドーコン 交通計画部 技師
(平成13年4月現在)